

1) わが国の慢性透析療法の要約

日本透析医学会は、1968年から年に一回、全国の透析療法施設を対象に統計調査を行っている。この調査は二種類の調査から成り立っていて、一つは施設のベッド数、スタッフ数、患者数などの施設背景に関する調査（施設調査；シートⅠを使用）である。もう一つは1人1人の患者に関する調査（患者調査；シートⅡ、Ⅲ、Ⅳを使用）である。

2007年末の統計調査は全国の4,098施設を対象に実施され、4,050施設から回答が寄せられた。施設調査票であるシートⅠの回収率は98.8%、患者調査に関する調査票であるシートⅡ、Ⅲ、Ⅳも含めた回収率は94.8%になった。これらの調査結果を集計した2007年末のわが国の慢性透析療法の現況を報告する。

(1) わが国の慢性透析療法の要約（図表1）

施設数		4,050施設	(65施設増)	1.6%増
設備	パーシェントステーション	108,570台	(4,188台増)	4.0%増
能力	同時透析	107,454人	(3,881人増)	3.7%増
	最大収容能力	364,151人	(13,208人増)	3.8%増

慢性透析患者	275,119人	(10,646人増)
--------	----------	------------

※慢性透析患者の総数は、シートⅠ患者総数欄の合計であり、治療方法別患者数の合計とは必ずしも一致しない。

人口100万対比	2,153.2人	(83.3人増)
----------	----------	----------

昼間	223,900人	(81.4%)
夜間	41,720人	(15.2%)
在宅血液	187人	(0.1%)
腹膜透析	9,314人	(3.4%)

導入患者数	36,909人	(536人増)	1.5%増
死亡患者数	25,237人	(1,203人増)	5.0%増

上記は施設調査による集計

	男性	女性	不詳	計
5年未満透析患者数	83,207	47,032	92	130,331 (49.5%)
5年以上10年未満透析患者数	40,156	25,561	7	65,724 (25.0%)
10年以上15年未満透析患者数	18,700	13,385	5	32,090 (12.2%)
15年以上20年未満透析患者数	9,076	7,314	0	16,390 (6.2%)
20年以上25年未満透析患者数	5,220	4,333	0	9,553 (3.6%)
25年以上透析患者数	5,150	4,020	1	9,171 (3.5%)

※透析歴別患者数は調査シートⅡ～Ⅳの記入から算出

患者調査による集計

最長透析歴	39年8ヵ月
-------	--------

患者調査による集計

解説

わが国の慢性透析療法の現況

今回の調査で回答された施設は4,050施設となり、前年度と比べ65施設（1.6%）増加した。

パーシェントステーションは108,570台であり、4,188台の増加であった。同時透析可能人数は107,454人で、最大収容能力は364,151人となった。

昼間透析の割合は81.4%で前年度より0.7%増加し、夜間透析は15.2%で0.5%減少した。2006年末まではCAPDとIPDという分類で集計していたが、今回の調査から腹膜透析で一本化した。腹膜透析の患者数は9,314人で前年度の9,223人より増加したが、割合としては0.1%減少した。

20年以上透析患者数は18,724人で前年度と比べ1,197人増加し、全透析患者の中の割合で7.1%となり、前年度より0.1%増加した。最長透析歴は39年8ヵ月であった。